

河川工作物アドバイザー会議の経過報告・今後の予定

1 平成27年度（2015年度）河川工作物アドバイザー会議の開催状況

(1) 平成27年10月14日～15日 第1回会議開催（場所：斜里町）

○ルシャ川の現地検討

○主な議題

- ・第39回世界遺産委員会の決議について
- ・ルシャ川の取扱いについて
- ・長期モニタリング項目の評価について
- ・第2次検討ダムについて

(2) 平成28年2月12日 第2回会議開催（場所：札幌市）

○主な議題

- ・今年度のモニタリング結果について
- ・ルシャ川の取扱いについて
- ・第2次検討ダムについて
- ・世界遺産委員会決議に係る今後の対応について

2 今年度のモニタリング調査結果

ダム改良等に係るモニタリング計画及び長期モニタリング計画に基づき、以下の調査を実施した。

(1) ダム改良等に係るモニタリング

- ① 羅臼川のダム改良後のモニタリングでは、改良したNo.19砂防ダムの上流において、シロザケの親魚個体を確認した。
- ② 第2次検討ダムの対象であるモセカルベツ川において、ダム改良前の調査を実施し、カラフトマス、シロザケともに第1ダム下流側で親魚、産卵床を確認したが、第1ダムから上流側への遡上は確認できなかった。

(2) 長期モニタリング

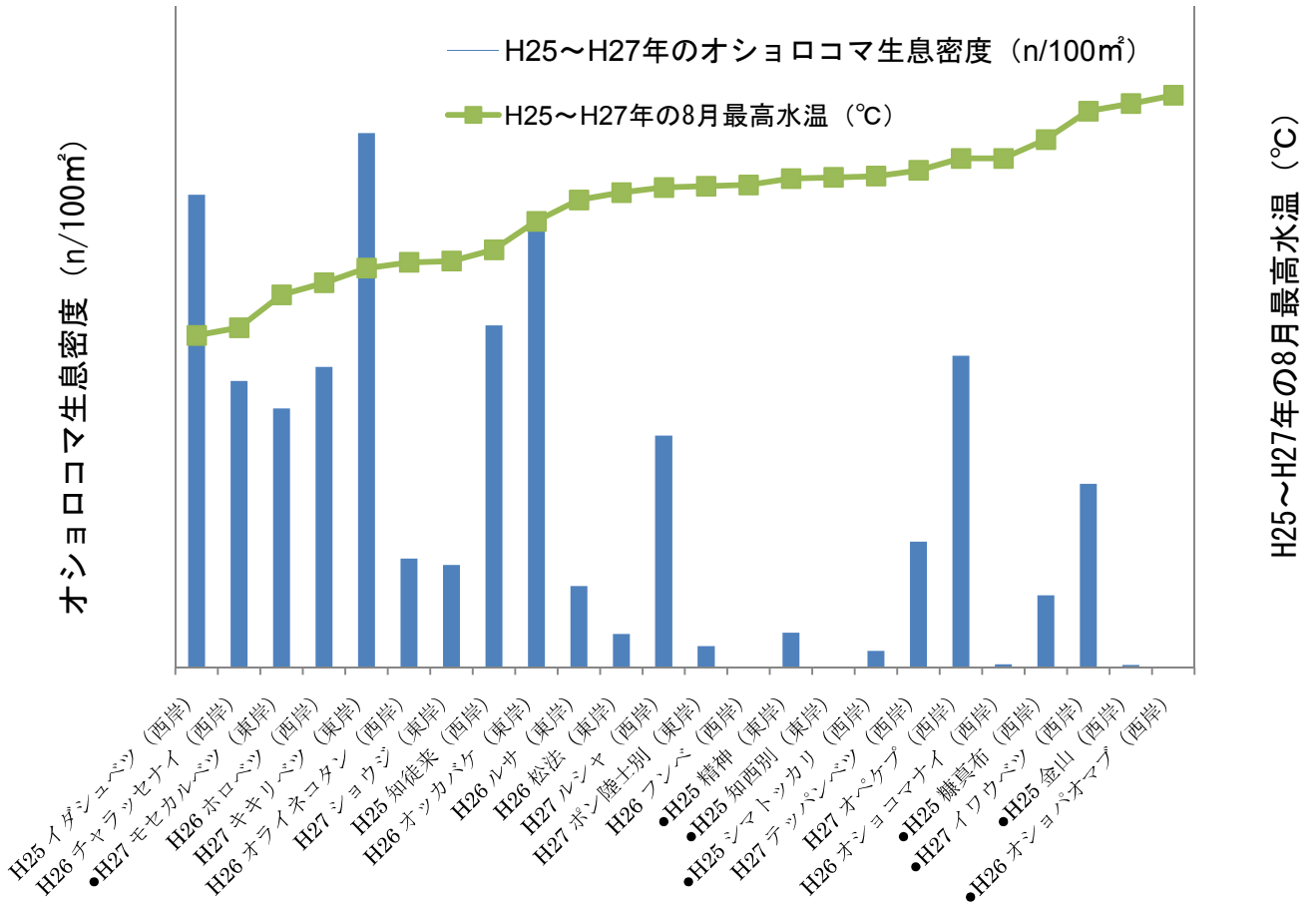
- ① ルシャ川、テッパンベツ川、ルサ川において、カラフトマスの遡上状況調査を実施した。
ルシャ川、テッパンベツ川では、カラフトマスの推定遡上数は過去2回（平成24、25年）の調査で最小、産卵床密度も低密度傾向であった。
また、ルサ川では過去2回の調査から遡上数の多い年と少ない年の差が非常に大きいこと、遡上のピークが調査年によって異なる等の結果となった。
- ② 7月から9月まで遺産隣接地域を含む37河川に温度ロガーを設置し、夏季の水温を計測するとともに、このうち8河川においてオショロコマ等の生息状況調査を実施した。

平成24、25年の調査と同様に、半島西岸のダム密度の高い（2基/km以上）河川は、ダム密度の低い河川よりも水温が高い傾向にあった。

また、先行研究を含めて過去5年以上の水温データ蓄積がある28河川（うち遺産内12河川）についてその変化を見たところ、遺産内のイワウベツ川等2河川につい

ては7月の最高水温が上昇傾向（ $P < 0.05$ ）であった。

過去3年間の調査結果から、高水温になるほどオシヨロコマ生息密度が低くなる傾向がある。



3 第39回世界遺産委員会決議に係る今後の対応について

ルシャ川のダムや橋等の取扱いについては、水理模型実験等の具体的な検討を開始しているところであるが、次年度6月に具体の改良方法等の決定に向けた検討会を開催する予定である。

また、決議に係る保全状況報告については、2016年12月1日までの回答期限に向け、これらの検討を踏まえつつ関係者間の協議を進める。

4 第2次検討ダムについて

改良すればサケ科魚類の生息環境等の改善が図られる可能性があるものの、改良に伴う防災機能等への全体的な影響が大きいため「現状維持」と評価した河川工作物（第2次検討ダム）について、防災機能等を維持しつつ、サケ科魚類の遡上に加え産卵環境の改善にも焦点を当てたダム改良を進めることとしている。

先行的河川として、オッカバケ川2基（林野庁）とモセカルベツ川1基（北海道）について、新委員への現地説明を実施するなど具体的な検討を進めている。

5 次年度の会議開催予定

- 第1回 現地検討会：2016年8月頃（斜里町、羅臼町）
- 第2回 2017年1月頃（札幌市）